

2025・7

柏の景気情報

令和7（2025）年7月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和7年7月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

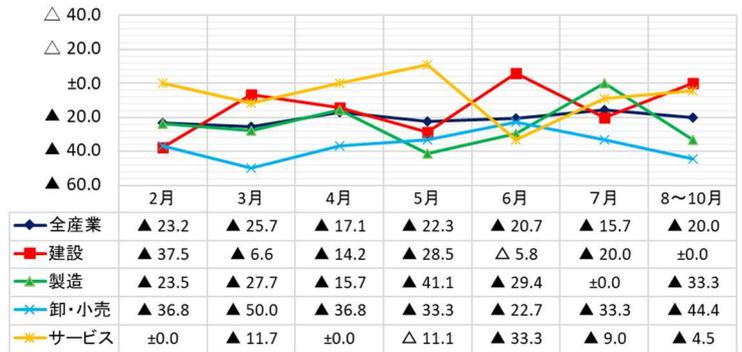
回答期間：令和7年7月22日～令和7年8月4日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数70

各業界、猛暑による経済的打撃大。政府に対し助成金等の政策を求める声が多く見受けられ・・・

7月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲15.7（前月水準▲20.7）となりマイナス幅が5.0ポイント縮小した。

各業界、米国関税の影響や継続する猛暑に対してコメント多数。建設業では、猛暑による作業効率低下や人手不足など厳しい状況。製造業では、賃上げによる費用圧迫や、関税の影響で先行きへの不安視の声が多数。卸・小売業・サービス業では、先月に続いて猛暑の影響で客数が減少傾向継続である。

柏の景気情報・産業別業況DI



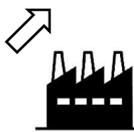
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「売上は堅調な月次決算が続いて好調となっている。ただし、消耗品等のコストが上昇していることから今後も売上の安定化、増加が求められる。また、事務作業処理のため、従業員の確保についても検討することが必要となった」（地質調査）「なかなか若者が続かず、後継者育成はとても大変」（畳工事請負・畳製造販売）「熱中症対策により作業効率の発生が低下している」（測量調査）



製造業

「8月のトランプ関税がどう影響として出てくるかで向こう3か月の状況は大きく変化すると思う。そういった意味では現状では予想が付かない」（その他の機械・同部品製造）「賃上げは毎年実施しているが、政府の標榜するレベルには無く、今後も毎年のように上がる最低賃金が、いつの日か経営をかなり圧迫していく事になりそう」（自動車・同附属品製造）「昨年9月からネット媒体を利用し若手社員の募集を行っているが応募がとても少ない。企業ブランディングを工夫し応募活動は継続するがコストが馬鹿にならない。助成金があればいいのと思う」（その他の化学工業）



卸・小売業

「まもなく新米の季節となるがお米の原料価格が気になる。米卸からの提示は昨年の平均130%以上のアップしている。政府の意向とまるで逆となっている」（飲食料品小売）「食料品やドラッグ商品が牽引しているが、思った以上に衣料品や住居関連は価格に敏感で、気温上昇で流れが変わるのを期待していたが厳しい状況」（大型小売）「柏マルイ閉店により、更に柏駅東口への流れが心配」（その他の各種商品小売）「猛暑が続き客足減している」（洋菓子店）



サービス業

「値上げの結果、売上・顧客単価ともに微増し続けているが、客数は微減している。8月は千葉県のカッシュレスキャンペーンで売上が伸びることを期待。個人消費喚起のためにこうした政策を定期的に行ってほしい」（ゴルフ練習場）「猛暑により、お客様の出足は、鈍っている。また、相変わらず資産、人件費、郵送コストの上昇は続いている。一時様子見の状態である。全体的に売買は低調」（不動産管理）「猛暑の影響で夏休みの期間の昼営業の客数が鈍る傾向がここ数年続いている。」（日本料理）「政治の悪影響をまともに受けそうな感じがする」（他に分類されない事業サービス（室内装飾・展示会装飾））

★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲18.9で、柏のほうがマイナス幅が3.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.7	 ▲ 20.0	 ± 0.0	 ▲ 33.3	 ▲ 9.0
CCI-LOBO	 ▲ 18.9	 ▲ 12.3	 ▲ 20.0	 ▲ 27.1	 ▲ 15.8
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.2	 ▲ 13.3	 ▲ 6.6	 ▲ 33.3	 ▲ 4.5
CCI-LOBO	 ▲ 5.8	 ▲ 3.3	 ▲ 3.7	 ▲ 12.2	 ▲ 3.4
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.8	 ▲ 26.6	 ▲ 13.3	 ▲ 38.8	 ▲ 13.6
CCI-LOBO	 ▲ 18.8	 ▲ 14.1	 ▲ 15.5	 ▲ 24.7	 ▲ 22.2
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 60.0	 ▲ 40.0	 ▲ 66.6	 ▲ 72.2	 ▲ 59.0
CCI-LOBO	 ▲ 60.9	 ▲ 70.7	 ▲ 54.3	 ▲ 65.2	 ▲ 59.5
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 14.2	 46.6	 6.6	 ▲ 5.5	 13.6
CCI-LOBO	 21.7	 36.5	 12.7	 22.1	 23.6
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.0	 ▲ 13.3	 ▲ 20.0	 ▲ 16.6	 4.5
CCI-LOBO	 ▲ 13.5	 ▲ 6.3	 ▲ 15.5	 ▲ 17.5	 ▲ 13.7

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：2025年7月15日～22日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、消費者の節約志向に猛暑が重なり悪化

先行きは、米国関税措置の影響懸念から慎重な見方

7月の全産業合計の業況DIは、▲18.9と前月比からマイナス2.1ポイント。

建設業・卸売業では、設備投資をはじめとした民間投資が堅調に推移し、改善した。小売業・サービス業では、生活必需品の値上げに伴う消費者の節約志向に、猛暑の影響が重なり、悪化した。また、製造業も食料品関係で小売業・サービス業からの引き合いが減少し、悪化した。

コメやガソリン価格の上昇に一服感が見られるものの食料品を中心に生活必需品の値上げは継続しており、節約志向の高まりを指摘する声が聞かれた。また、猛暑

の影響が広く聞かれており、熱中症対策品の需要があったものの、外出控えに伴う客数減少から、中小企業の業績は悪化した。

先行き見通しDIは、▲18.5と今月比からプラス0.4ポイント

政府の電気・ガス代支援(7～9月使用分)により、企業のコスト負担緩和が見込まれる中、夏休み需要やイベント等による個人消費の拡大が期待される。

一方、生活必需品の値上げが続く中、猛暑の影響による生鮮品の価格高騰も予想され、消費マインドの悪化が懸念される。また、8月以降、米国関税措置の影響が本格化すると思われるほか、10月には最低賃金の引上げが見込まれており、先行きは慎重な見方となっている。

【建設業】

「設備投資を中心に民間工事が好調。工事単価上昇で売上は増加しているが、コスト

増加分の価格転嫁は十分ではない」(一般工事業)

「民間の受注が好調に推移する中、生産性向上を企図した3Dデジタルデータの活用によるDXを進めている。猛暑のため、冷却ファンのついた作業着の導入、飲料の配備こまめな休憩時間の確保など、熱中症対策を強化している」(建築工事業)

【製造業】

「原材料費上昇の価格転嫁はできたものの、値上げに消費者がついてこられず、販売量が減少しており、結果的に苦しい状況となっている」(パ

ン・菓子製造業)
「米国関税措置の影響で、取引先の設備投資計画の見直し・延期が発生している」(金属加工機械業)

【卸売業】

「7月以降、熱中症警戒アラートが相次いで発表されたこともあって、熱中症対策品に特需が見られる」(衣服卸売

業

「家計への影響が大きい一般家庭向けの肉類の値上げが著しく、消費者の節約志向の高まりが懸念される。仕入価格上昇分の価格転嫁に応じてくれない取引先も散見される」(食料・飲料卸売業)

【小売業】

「コメ価格の上昇に落ち着きが見られているが、顧客の節約志向は継続。暑い日が続いており、昼間だけではなく午前中の客数も減っている。高齢者を中心に、近所のスーパーで買い物を済ませる傾向がみられる」(百貨店)

「今年の10月の最低賃金改定に備えて、生産性向上による賃上げ原資の確保に努めている」(総合スーパー)

【サービス業】

「7月は猛暑の影響で人の動きが鈍く客足が遠のいていく。食料品価格の高騰も続いており、経営環境は一般と厳しくなっている」(飲食店)

「6月までの宿泊者数は前年度よりは高い水準で推移していたが、7月に入ってから、災害発生時の風説被害の影響で、香港を中心としたアジア圏のインバウンド客数が鈍化している」(宿泊業)

全国・産業別業況DIの推移

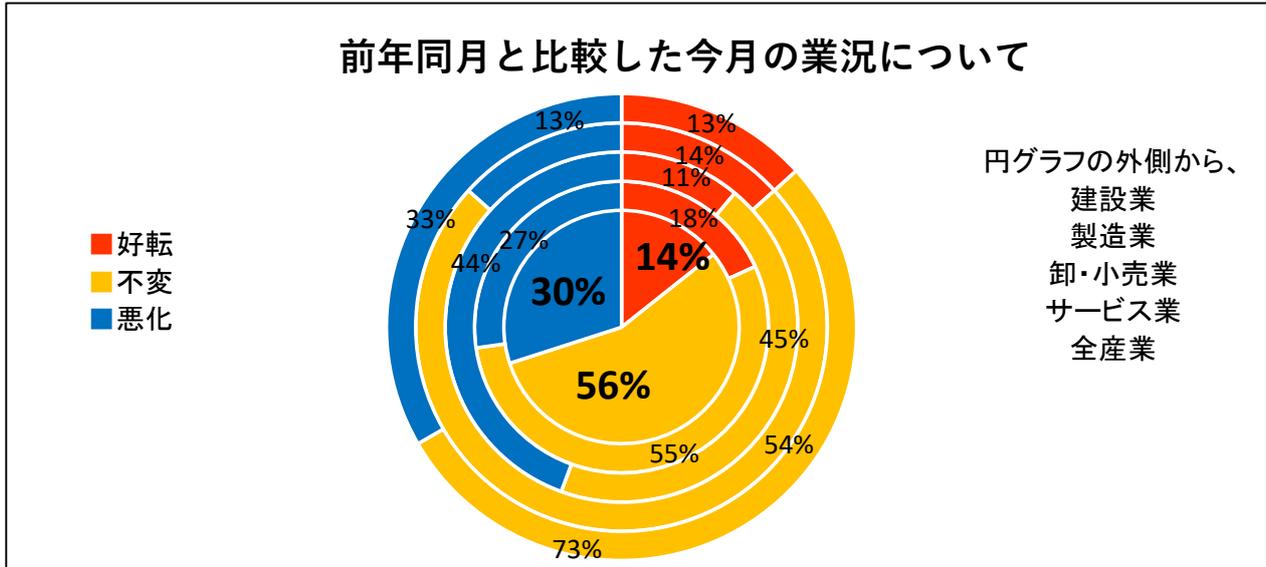
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲20.5	▲16.7	▲25.0	▲19.5	▲28.5	▲130
3月	▲19.2	▲15.6	▲24.7	▲17.6	▲23.1	▲13.9
4月	▲18.5	▲17.7	▲23.0	▲23.1	▲23.5	▲23.5
5月	▲18.0	▲13.8	▲22.3	▲23.7	▲25.2	▲8.5
6月	▲16.8	▲15.2	▲18.6	▲23.5	▲22.4	▲8.5
7月	▲18.9	▲12.3	▲20.0	▲18.7	▲27.1	▲15.8
見通し	▲18.5	▲13.5	▲18.8	▲26.0	▲26.9	▲11.6

令和7年（2025年）7月の動向

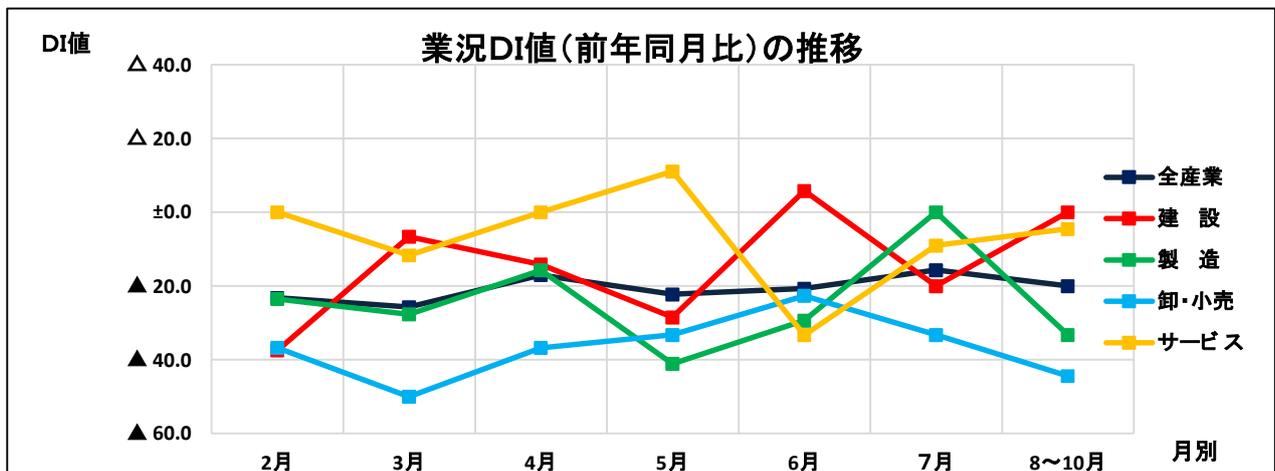
【業況について】

- 7月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲15.7（前月水準▲20.7）となり、マイナス幅が5.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（8月から10月）の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0（前月水準▲14.2）となり、マイナス幅が5.8ポイント拡大した。



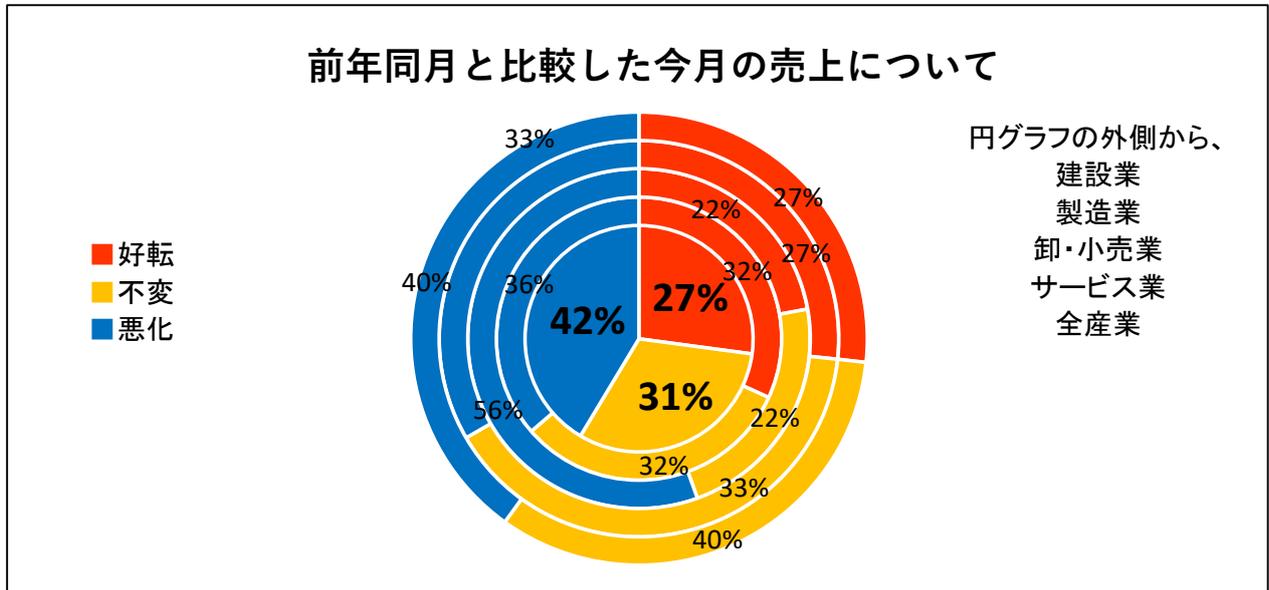
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年							先行き見通し	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月	(7~9月)	
全産業	▲23.2	▲25.7	▲17.1	▲22.3	▲20.7	▲15.7	▲20.0	(▲14.2)	
建設	▲37.5	▲6.6	▲14.2	▲28.5	△5.8	▲20.0	±0.0	(▲5.8)	
製造	▲23.5	▲27.7	▲15.7	▲41.1	▲29.4	±0.0	▲33.3	(▲5.8)	
卸・小売	▲36.8	▲50.0	▲36.8	▲33.3	▲22.7	▲33.3	▲44.4	(▲22.7)	
サービス	±0.0	▲11.7	±0.0	△11.1	▲33.3	▲9.0	▲4.5	(▲19.0)	



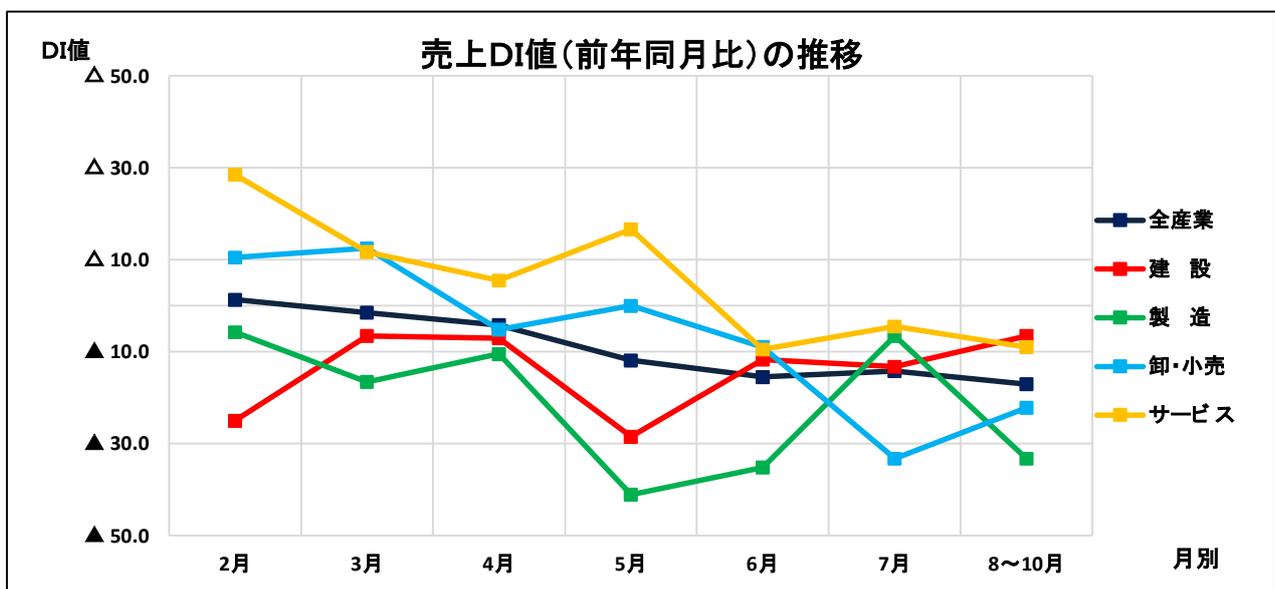
【売上について】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.2(前月水準▲15.5)となり、マイナス幅1.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.1(前月水準△2.5)となり、プラス幅が19.6ポイント縮小した。



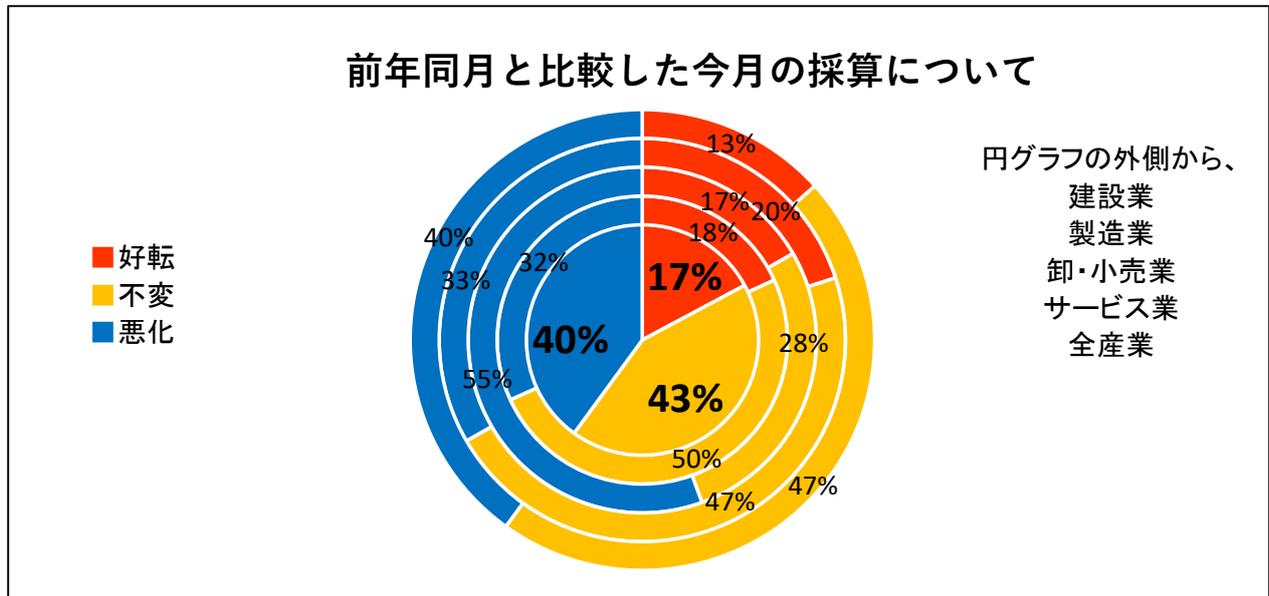
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月	(7~9月)
全産業	△1.3	▲1.5	▲4.2	▲11.9	▲15.5	▲14.2	▲17.1	(△2.5)
建設	▲25.0	▲6.6	▲7.1	▲28.5	▲11.7	▲13.3	▲6.6	(▲5.8)
製造	▲5.8	▲16.6	▲10.5	▲41.1	▲35.2	▲6.6	▲33.3	(△5.8)
卸・小売	△10.5	△12.5	▲5.2	±0.0	▲9.0	▲33.3	▲22.2	(△9.0)
サービス	△28.5	△11.7	△5.5	△16.6	▲9.5	▲4.5	▲9.0	(±0.0)



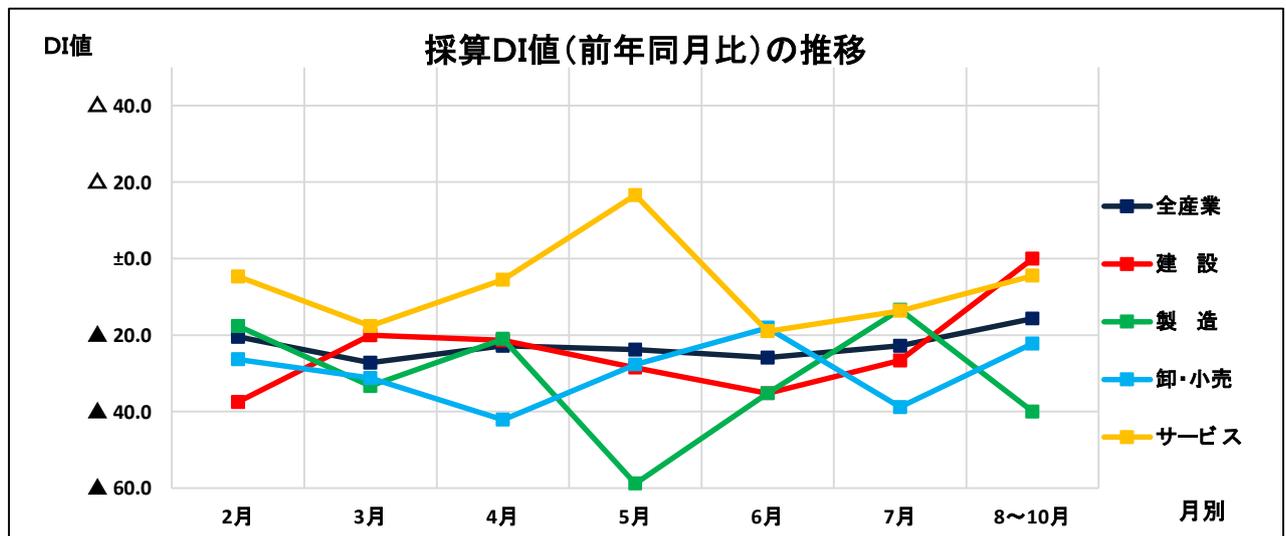
【採算について】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.8(前月水準▲25.9)となり、マイナス幅が3.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.7(前月水準▲5.1)であり、マイナス幅が10.6ポイント拡大する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

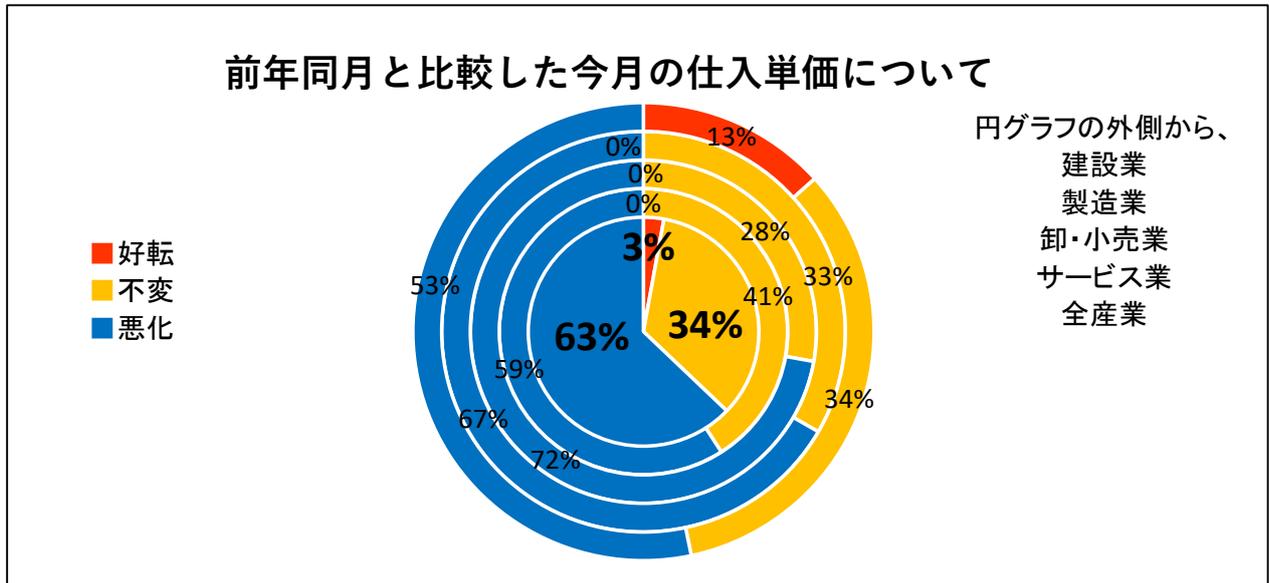
	令和7年						先行き見通し	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月 (7~9月)	
全産業	▲20.5	▲27.2	▲22.8	▲23.8	▲25.9	▲22.8	▲15.7 (▲5.1)	
建設	▲37.5	▲20.0	▲21.4	▲28.5	▲35.2	▲26.6	±0.0 (±0.0)	
製造	▲17.6	▲33.3	▲21.0	▲58.8	▲35.2	▲13.3	▲40.0 (△5.8)	
卸・小売	▲26.3	▲31.2	▲42.1	▲27.7	▲18.1	▲38.8	▲22.2 (▲13.6)	
サービス	▲4.7	▲17.6	▲5.5	△16.6	▲19.0	▲13.6	▲4.5 (▲9.5)	



【仕入単価について】

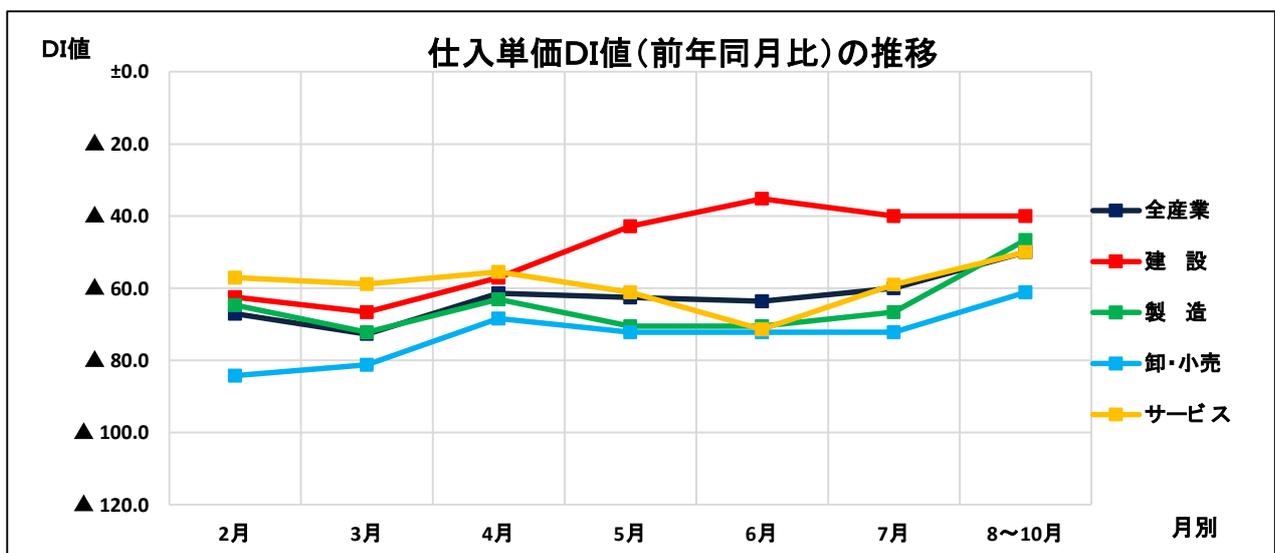
○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.0(前月水準▲63.6)となり、マイナス幅3.6ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲50.0(前月水準▲55.8)となり、マイナス幅が5.8ポイント縮小する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

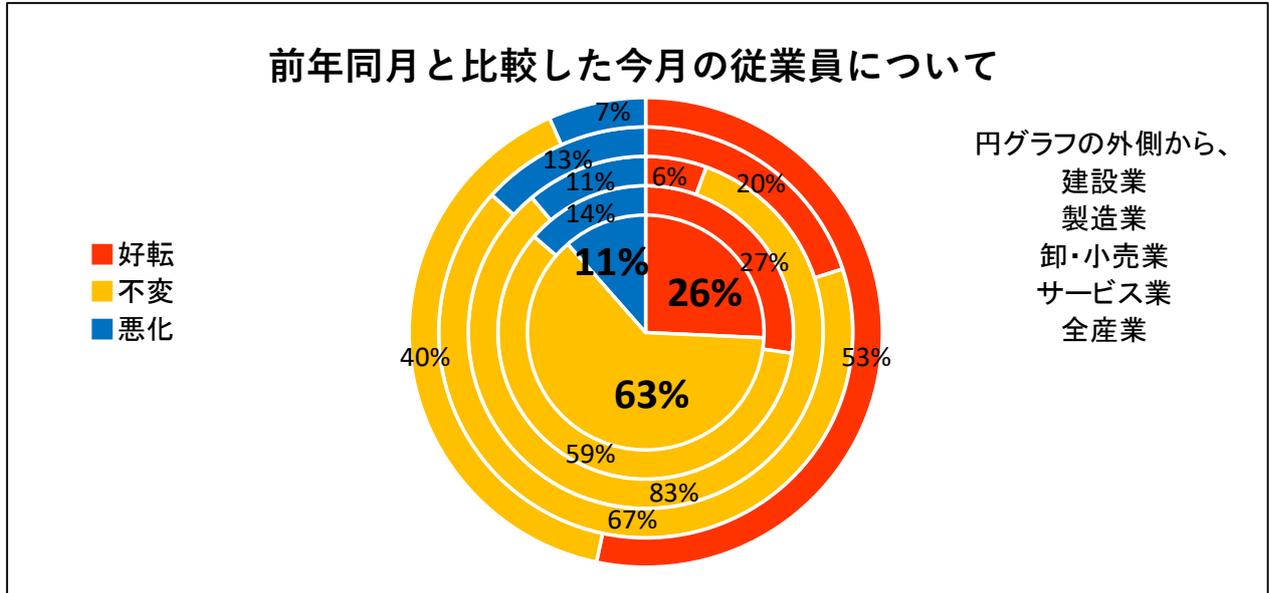
	令和7年						先行き見通し	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月 (7~9月)	
全産業	▲67.1	▲72.7	▲61.4	▲62.6	▲63.6	▲60.0	▲50.0 (▲55.8)	
建設	▲62.5	▲66.6	▲57.1	▲42.8	▲35.2	▲40.0	▲40.0 (▲41.1)	
製造	▲64.7	▲72.2	▲63.1	▲70.5	▲70.5	▲66.6	▲46.6 (▲64.7)	
卸・小売	▲84.2	▲81.2	▲68.4	▲72.2	▲72.2	▲72.2	▲61.1 (▲50.0)	
サービス	▲57.1	▲58.8	▲55.5	▲61.1	▲71.4	▲59.0	▲50.0 (▲66.6)	



【従業員について】

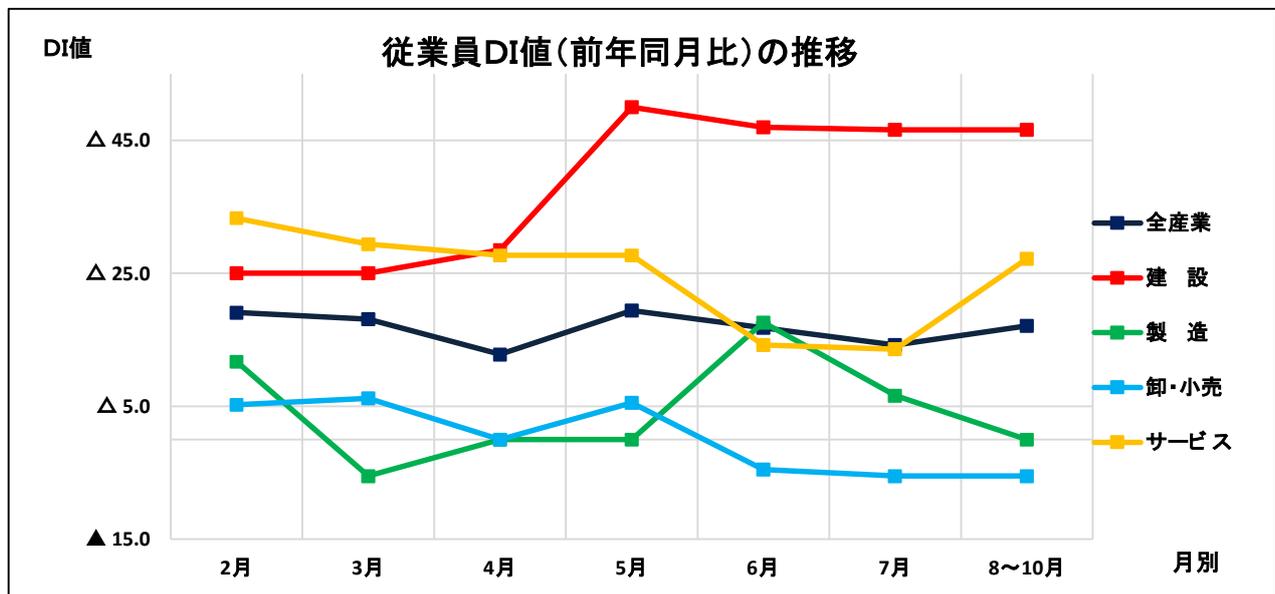
○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△14.2(前月水準△16.8)となり、プラス幅が2.6ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.1(前月水準△22.0)となり、プラス幅が4.9ポイント縮小する見通しである。



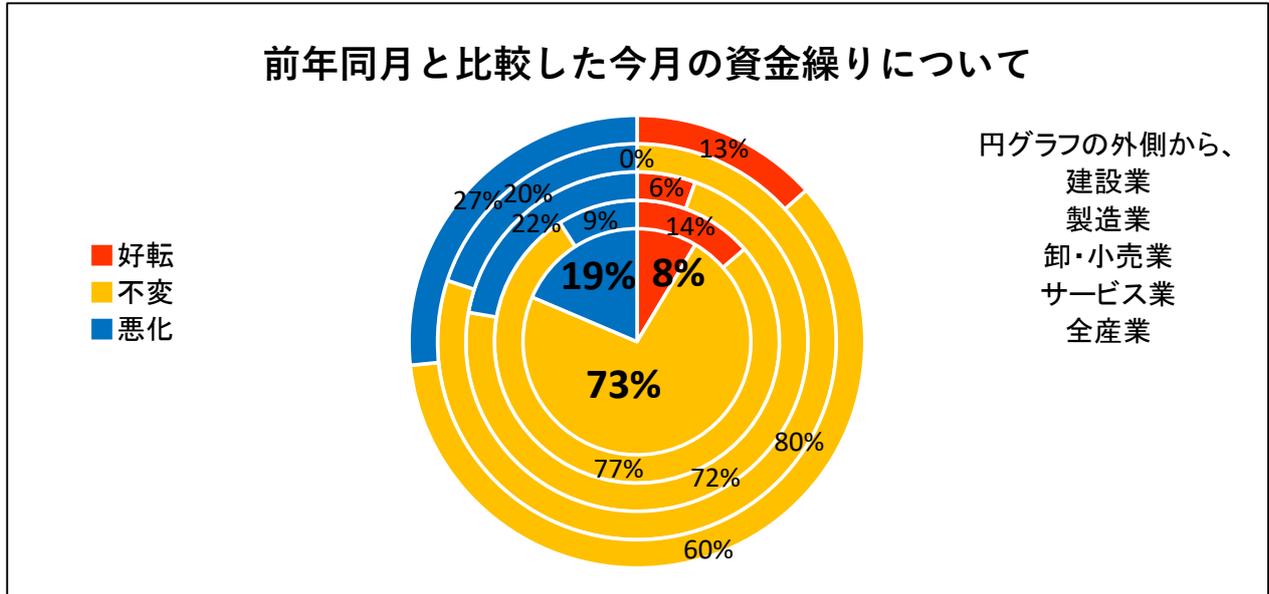
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和7年							先行き見通し	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月	(7~9月)	
全産業	△ 19.1	△ 18.1	△ 12.8	△ 19.4	△ 16.8	△ 14.2	△ 17.1	(△ 22.0)	
建設	△ 25.0	△ 25.0	△ 28.5	△ 50.0	△ 47.0	△ 46.6	△ 46.6	(△ 47.0)	
製造	△ 11.7	▲ 5.5	± 0.0	± 0.0	△ 17.6	△ 6.6	± 0.0	(△ 29.4)	
卸・小売	△ 5.2	△ 6.2	± 0.0	△ 5.5	▲ 4.5	▲ 5.5	▲ 5.5	(± 0.0)	
サービス	△ 33.3	△ 29.4	△ 27.7	△ 27.7	△ 14.2	△ 13.6	△ 27.2	(△ 19.0)	



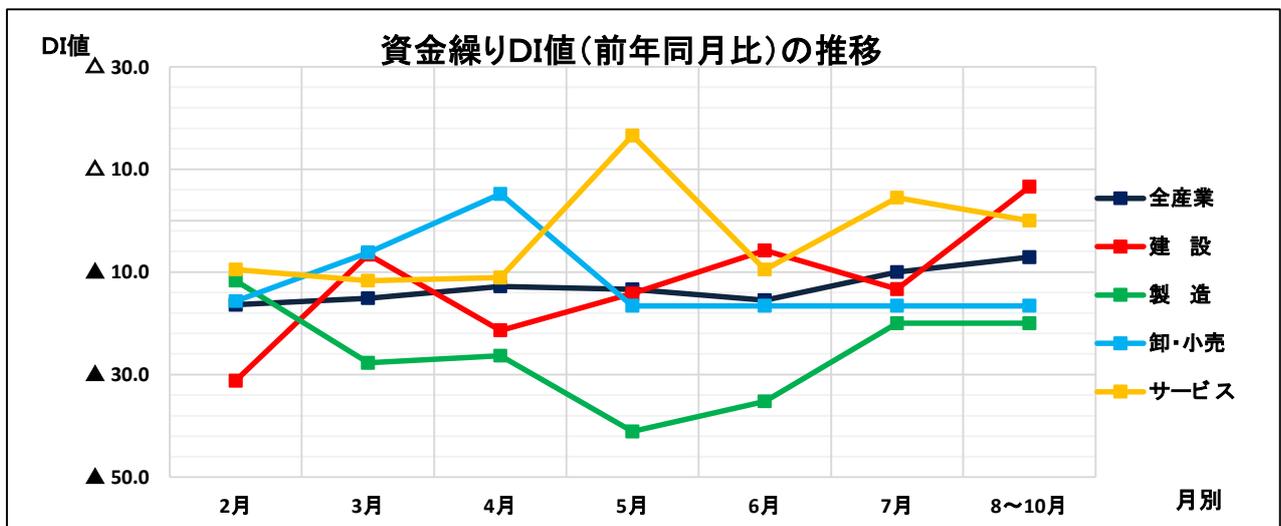
【資金繰りについて】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲15.5)となり、マイナス幅が5.5ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.1(前月水準△0.0)となり、マイナス幅が7.1ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年							先行き見通し	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月	(7~9月)	
全産業	▲16.4	▲15.1	▲12.8	▲13.4	▲15.5	▲10.0	▲7.1	(±0.0)	
建設	▲31.2	▲6.6	▲21.4	▲14.2	▲5.8	▲13.3	△6.6	(△11.7)	
製造	▲11.7	▲27.7	▲26.3	▲41.1	▲35.2	▲20.0	▲20.0	(▲17.6)	
卸・小売	▲15.7	▲6.2	△5.2	▲16.6	▲16.6	▲16.6	▲16.6	(△9.0)	
サービス	▲9.5	▲11.7	▲11.1	△16.6	▲9.5	△4.5	±0.0	(▲4.7)	

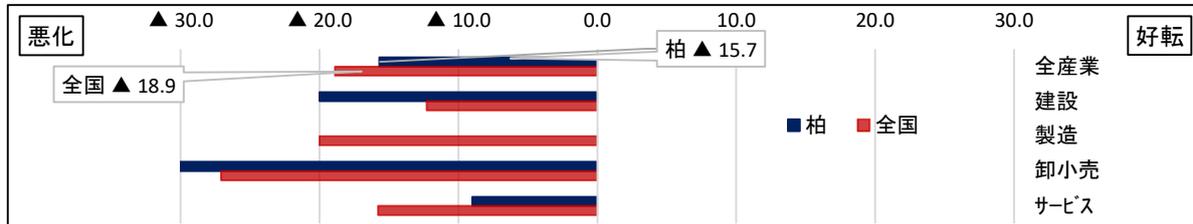


全国（CCI-LOBO）との比較

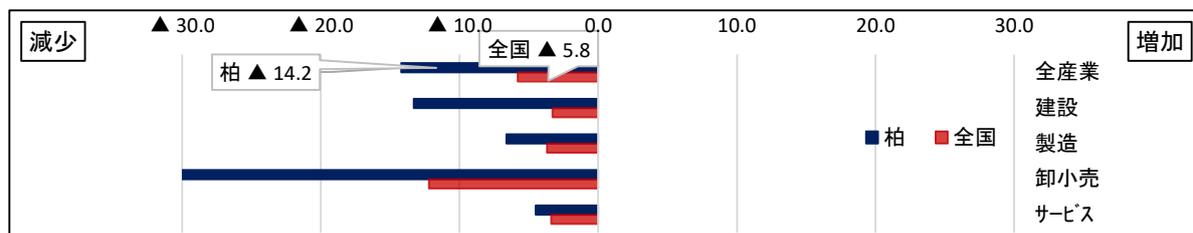
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

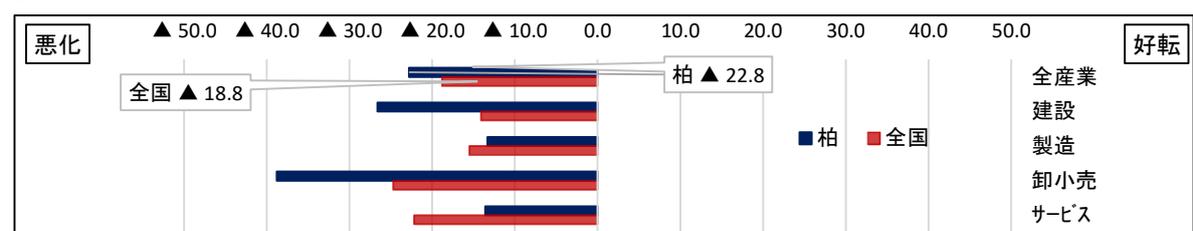
【業況D I】



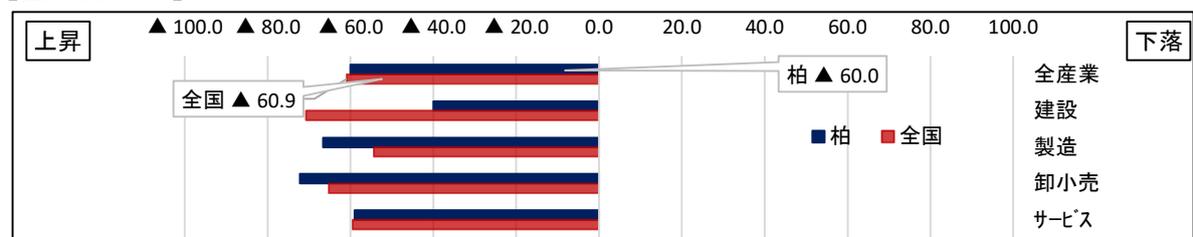
【売上D I】



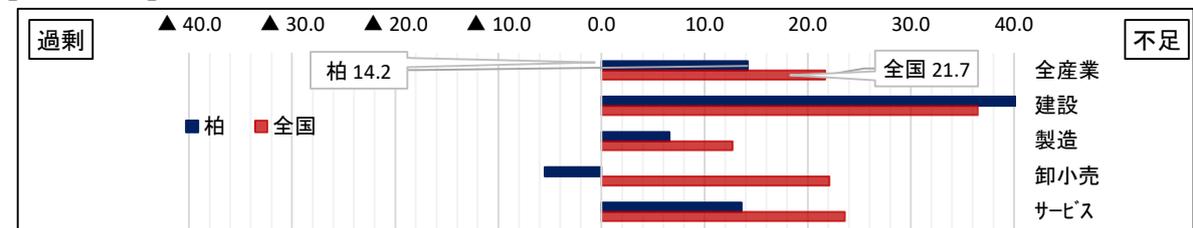
【採算D I】



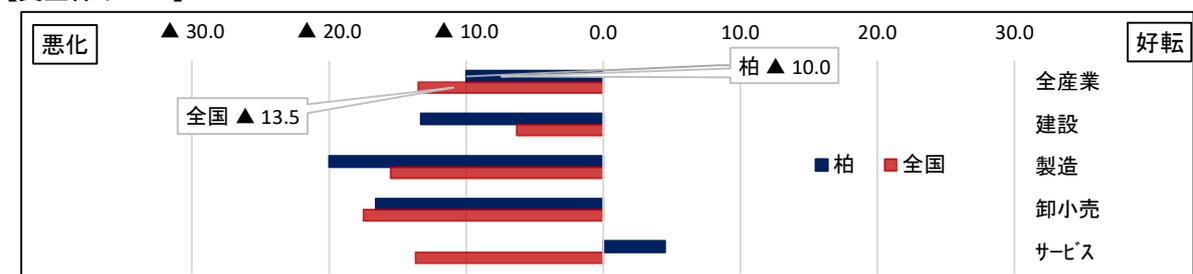
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	熱中症対策による作業効率の低下	測量調査
	なかなか若者が続かず、 後継者育成はとても大変です。	畳工事請負・畳製造販売業
	売上は堅調な月決算が続いて好調となっている。ただし、消耗品等のコストが上昇していることから今後も売上の安定化、増加に求められる。また、事務作業処理のため、従業員の確保についても検討することが必要となった。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	政府の言う賃上げとは？ 企業が賃上げするのであって政府は関係ないのでは？企業が賃上げするのを助成する、大企業への値上げ促進を法律化するなどしないと無理ではないか。 大企業の何兆円も利益をだしている企業の内部留保禁止、従業員への還元、株主への還元、そしてなにより下請け企業への還元を行わないと格差開くばかりです。 そもそも巨額の利益を出しておきながら税金を払わず、消費税の還付を受けている企業は誰のための企業なんでしょうか。 日本企業なら海外拠点の決算とは関係なく国内での企業活動において決算したもので納税すべきだと思います。	その他の金属製品製造業
	化粧品容器医療品容器あてにしていた新企画案件がすべて引き延ばしとなってしまい、仕事量が不安定な状況が続いている。	プラスチック加工
	8月のトランプ関税がどう影響として出てくるかで向こう3か月の状況は大きく変化すると思います。 そういった意味では現状では予想が付きません	その他の機械・同部品製造業
	7月～9月の3ヶ月期間は、ユーザーが長期夏季休暇のため売上は減少傾向にある。 毎年暑さが増しているため、従業員が熱中症にならないように色々な対策に取り組んでいる	その他の鉄鋼業
	賃上げは毎年実施しているが、政府の標榜するレベルには無く、今後も毎年のように上がる最低賃金が、いつの日か経営をかなり圧迫していく事になりそう。	自動車・同附属品製造業
	昨年9月からネット媒体を利用し若手社員の募集を行っているが応募がとても少ない。 書類選考のハードルを下げて面接の場を設けてもドタキャンが3回あった。企業ブランディングを工夫し応募活動は継続するがコストが馬鹿にならない。助成金があればいいのと思う。	その他の化学工業
	トランプ関税の影響で日本、東南アジア諸国、中国などの景気が悪くなりそうで先行きが不透明な状況である。	一般産業用機械・装置製造業

【業種別】業界内トピックス

卸・小売業	<p>米騒動は終息、消費は米から飲料等の盛夏商材にシフトしている。食品は堅調、価格を抑えたお買い得な大型パックなどが好調、また気温上昇で夕刻にお買い物がシフトしている。 ドラック関連も盛夏商材が牽引し堅調に推移している、7月に入っても処方箋や日焼け対策商品は上昇している。 反対に衣料品の水着や浴衣、レイン及び日傘の動きが鈍く、価格を下げなければ非常に厳しい。 住居関連も衣料品と同様に価格を下げなければ動きは鈍い。</p> <p>食料品やドラック商品が牽引しているが、思った以上に衣料品や住居関連は価格に敏感で、気温上昇で流れが変わるのを期待していたが厳しい状況。</p>	大型小売店
	<p>猛暑が続き客足減</p>	洋菓子店
	<p>まもなく新米の季節となるがお米の原料価格が気になります。米卸からの提示は昨年平均130%以上のアップです。政府の意向とまる逆となっています。</p>	飲食料品小売業
	<p>柏マルイ閉店により、更に柏駅東口への流れが心配。</p>	その他の各種商品小売業
サービス業	<p>AIをもっと勉強して活用していきたい</p>	不動産賃貸・管理業
	<p>猛暑により、お客様の出足は、鈍っている。また、相変わらず価格、人件費、郵送コストの上昇は続いている。一時様子見の状態である。全体的に売買は低調。</p>	不動産管理業
	<p>政治の悪影響をまともに受けそうな感じがする。</p>	他に分類されない事業サービス業(室内装飾・展示会装飾)
	<p>西口再開発の中止を見ても明らかなように関係者のベクトルが合っていないのは確かです。今のまま20年は変わらないのでソフトを充実させるべき。</p>	不動産賃貸業
	<p>値上げの結果、売上・顧客単価ともに微増し続けているが、客数は微減している。8月は千葉県のキャッシュレスキャンペーンで売上が伸びることを期待。個人消費喚起のためにこうした政策を定期的に行ってほしい。</p>	ゴルフ練習場
	<p>国内旅行が減少傾向にある、万博・ジャングリア開業などでカバーしているが、今後に不安はあります。 海外旅行は緩やかに回復傾向にあります、勢いが感じられない。</p>	旅行
<p>猛暑の影響で夏休みの期間の昼営業の客数が鈍る傾向がここ数年続いている。</p>	日本料理	

調査要領

回答期間

令和7年7月22日 ～ 令和7年8月4日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	70	40.5%
建設	38	15	39.5%
製造	44	15	34.1%
卸・小売	46	18	39.1%
サービス	45	22	48.9%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				